

【国際サンゴ礁年概要】

■国際サンゴ礁年とは？

(1) 経緯

サンゴ礁保全のための国際的枠組みである国際サンゴ礁イニシアティブ (ICRI) は、平成 18 年 10 月にメキシコで開催された総会において、2008 (平成 20) 年を「国際サンゴ礁年」として指定し、各国で、様々な関係者が協力して、サンゴ礁の保全や普及啓発にかかわる行事の開催を推進することを決定しました。

(2) 「国際サンゴ礁年」の目的：

- サンゴ礁と関連生態系の生態的、経済的、文化的な価値についての理解、そして、そのサンゴ礁が重大な危機に直面しているという理解を広めること。
- サンゴ礁と関連生態系の保全と持続可能な利用のための有効な管理戦略の策定と実施のため、すべてのレベル (官、民、NGO、地域住民等) で、早急に行動を起こすこと。

(3) 国内での準備状況と今後の予定：

環境省では、様々な主体の参画を得て推進委員会を立ち上げ、「国際サンゴ礁年」の計画作り、各種活動の展開に向けた準備を進めています。また、各主体が実施する関連イベントの情報を収集し、積極的に広報等を行う予定。

■国際サンゴ礁イニシアティブ (ICRI) とは？

「国際サンゴ礁イニシアティブ (ICRI)」は、サンゴ礁、藻場、マングローブなどの保全を目的とした国際協力の枠組みです (現在、44 ヶ国・40 機関が参加)。ICRI の事務局は参加国が持ち回りで担うことになっており、平成 17 年 7 月から平成 19 年 6 月まで、我が国とパラオ共和国が共同で議長国及び事務局を担当しました。

■オープニングイベント出演者プロフィール

田中 律子 (たなか・りつこ)

女優 / 特定非営利活動法人 アクアプラネット 会長

1984 年にモデルとしてデビュー後、さまざまなドラマ・バラエティ・映画・CM に出演。1997 年に結婚。一児の母でもある。スクーバダイビングインストラクターの資格を持っており、サンゴ礁の保全・再生を目的とした NPO「アクアプラネット」の会長も務める。

安永 正（やすなが・ただし）

サンシャイン国際水族館 館長

1957年6月生。中学、高校時代を熊本県天草で過ごす。干潟をフィールドとし、泥まみれになって生き物と戯れる。東京水産大学（現 東京海洋大学）修士卒業後、現在の職場であるサンシャイン国際水族館に勤務。昨年4月にオープンした『サンシャインサンゴ礁水槽』で育ったサンゴを、沖縄の海に戻すべく奮闘中。ダイビング、水中写真を趣味とし、石垣島の海の魅力にとりつかれている。

宮良 道子（みやら・みちこ）【パネリスト】

沖縄県 文化環境部 自然保護課 自然保護班 主査

埼玉県出身。筑波大学第一学群人文学類を卒業後、1995年から沖縄県職員として従事。土木建築部、環境保健部、企画開発部を経て、現在、文化環境部自然保護課でサンゴ礁保全を担当。沖縄県では2006年度までオニヒトデ対策を中心としたサンゴ礁保全対策事業を実施し、2007年度からは官民協働のサンゴ礁保全・再生体制の構築に向けて取り組んでいる。自然が好きで、小さい頃から山々をハイキングするのが楽しみ。沖縄に来てからは両親の故郷の芸能である八重山民俗舞踊に熱中。

山野 博哉（やまの・ひろや）【パネリスト】

独立行政法人 国立環境研究所 地球環境研究センター 主任研究員

1970年生まれ。東京大学大学院理学系研究科地理学専攻卒業、博士（理学）。1999年より国立環境研究所に勤務。サンゴ礁地形の形成過程の解明と、リモートセンシングを用いたサンゴ礁マッピングとモニタリングに基づいて、地球温暖化に対するサンゴ礁の応答に関する研究を行っている。日本サンゴ礁学会評議員、学会誌編集委員長、広報委員、サンゴ礁保全委員会委員。国際サンゴ礁年における科学者ワーキンググループの運営を担当している。

宮本 育昌（みやもと・やすあき）【パネリスト】

富士ゼロックス株式会社 CSR部 社会貢献推進室

1991年入社。半導体関係の研究開発に従事した後、2007年4月から現職において、主に社員のボランティア活動の推進を行う。また、社内ボランティア組織「端数倶楽部」の自然環境保護部会で運営委員を10年以上、部会リーダーを数年務めた後、2007年7月から事務局長を担う。さらに、NPO コーラル・ネットワークの事務局長を務め、世界中で行われている市民と研究者によるサンゴ礁の健康診断「リーフチェック」を、日本のコーディネーターとして推進している。

山中 康司（やまなか・やすし）【パネリスト】

株式会社 トーイダイビング企画 代表取締役

特定非営利活動法人 日本安全潜水教育協会 会長

福岡県北九州市出身。大学時代にダイビングを始め、在学中にインストラクターの資格を取得。西伊豆安良里で漁協と共同で安良里ダイビングセンター運営している。ダイビングマニュアル書の編集や雑誌コラムも担当。また、水辺の安全と環境保全を目的とした NPO 法人・日本安全潜水教育協会の会長も務め、インストラクターのネットワーク充実を目指す。

阿部 治（あべ・おさむ）【パネリスト】

立教大学 教授（社会学部・大学院異文化コミュニケーション研究科）

立教大学 ESD 研究センター長

行政や NGO、企業、学校などあらゆるセクターが連携しながら、持続可能な社会をめざす総合的な環境教育である「持続可能な開発のための教育」（ESD）の研究と推進に取り組んでいる。筑波大学大学院修了後、筑波大学、埼玉大学などを経て、2002 年より現職。現在、日本学術会議特任連携会員、持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議代表理事、日本環境教育フォーラム理事、日本環境教育学会常任運営委員など。

中島 慶次（なかしま・けいじ）【パネリスト】

環境省 自然環境局 自然環境計画課 調整専門官

東京農工大学で植生管理学を学んだ後、環境省に入省。東北北海道地区国立公園・野生生物事務所、インドネシアでの JICA 専門家、奥多摩自然保護官事務所などを経て、秋からサンゴ礁の保全を担当。来年、夏の家族旅行はサンゴ礁のある海にしようかと思案中。

青木 将幸（あおき・まさゆき）【コーディネーター】

青木ファシリテーター事務所

1976 年生まれ。1994 年より、オゾン層、森林、地球温暖化などをテーマに環境 NGO 活動を開始。企画会社勤務を経て、2003 年に独立し、青木将幸ファシリテーター事務所を設立。会議や研修の場面におけるファシリテーター（進行役・促進役）の育成と実践を行っている。

■ イメージキャラクターデザイナー

中村 ちづる（デザイナー）

1974年広島県福山市生まれ。岡山県岡山市在住。

プロダクトデザイン専門学校を卒業。パッケージデザイン会社勤務を経て、インターネットを基盤にコンテンツ制作などを手がける。(株)アットに在籍。1日約10000PVのイラスト・素材制作専門サイト「イラスト工房」を監修。2003年6月「CHIZUROOM」を開設。キャラクターデザイン、イラストレーションなどを中心に全国で活動中。明るく、楽しく、愛着のわくデザインを得意とする。

■ ワーキンググループ毎の活動趣旨概要

現在、日本国内においては、「国際サンゴ礁年2008」の趣旨に賛同した、企業・マスコミ・ダイビング指導団体・水族館・NGO・自治体・研究者・個人等が集まって発足した国際サンゴ礁年2008推進委員会において、「国際サンゴ礁年2008」の活動の推進に向けた話し合いを行っています。

推進委員会の下にテーマ毎に4つのワーキンググループを設置し、それぞれが主体的に関わる参加型会議を重ね、「国際サンゴ礁年2008」における活動について、さまざまな企画を話し合い、その準備を進めています。

□ 推進委員会

国際サンゴ礁年2008推進委員会は、日本国内における、「国際サンゴ礁年2008」の活動に関する基本ルールづくりや、活動計画づくり、各ワーキンググループ及び実施者間の調整、情報共有、連携促進等のコーディネートの役割を担っており、現在、月1回のペースで会議を重ねています。

□ 沖縄ワーキンググループ

沖縄ワーキンググループは、国内最大のサンゴ礁海域のある、地元（沖縄）関係者を中心とした有志が集まり、「国際サンゴ礁年2008」に沖縄でできる活動や、沖縄から発信できる活動などについて検討しています。

□ 科学者ワーキンググループ

日本サンゴ礁学会員を中心とした有志が集い、「国際サンゴ礁年2008」を科学面でサポートします。また、科学者の調査研究の成果を発信していきます。

□ 環境教育ワーキンググループ

環境教育に関心がある有志が集まり、「国際サンゴ礁年2008」において「海の環境教育」のプログラムの策定や活動について、準備・検討しています。

□ ダイビングワーキンググループ

ダイビングワーキンググループは、現在行われているサンゴ礁保全活動の情報収集と、ダイバーによる活動支援のための提案作りや、「国際サンゴ礁年2008」にダイビング業界全体でできる事の検討を行っています。